

5thアベニューを挟んだ 55丁目に、ペニンシュラとセントレジスの高級ホテルが華やかさを競い合っているが、ペニンシュラの目の前にある教会が創成期における2ホテルの命運を分けたストーリーがある。教会の名は「5番街長老教会」[The Fifth Avenue Presbyterian Church]。当時、リカーライセンス(酒類取扱い許可証)取得に際して、教会や学校近くのバーやレストランは厳しく制限されていた。ペニンシュラの前身「The Gotham Hotel」は1905年この地に華々しく開業したが、結局リカーライセンスが取得できず、アルコールのないホテルのバーやレストランは商売にならなかった。さらに04年のセントレジス、07年のプラザとニューヨークを代表するホテルが開業して、ゴッサムホテルはすっかり影が薄くなり、わずか3年後の08年に倒産してしまう。

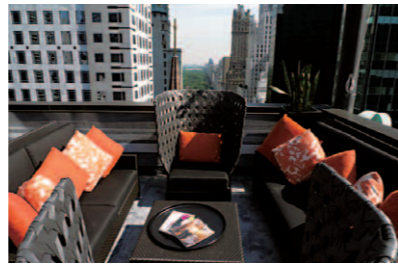
その後ホテルは、メトロポリタン生命やスイスのホテルオーナーなどに引き継がれたが、1987年12月に「Hotel Maxim's de Paris」として再オープンした。81年にマキシム・ド・パリの経営権を獲得していたピエールカルダン氏とライセンス契約をしたもので、アール・ヌーボワの家具や絵画、調度品など徹底的にマキシム流のフレンチデザインに変更された。そして翌88年10月にホテルは香港上海ホテルズ社に買収され、ついに「The Peninsula New York」の誕生に導かれる。思えばゴッサムホテルの開業から83年の年月が経過していた。また、香港上海ホテルズ社にとってアジア以外、西洋初進出の記念すべきホテルとなった。

ペニンシュラNYは買収以後、何回かリノベーションを施してきたが、特筆すべきは屋上に新設した最高の眺望を誇る三層階のスパ施設であろう。ペニンシュラスパ、ジム・フィットネスとサンテラス、そして最上階のスイミングプールと三層の広大なスペースを有している。ニューヨークの最高級といわれるホテルは歴史的な建物が多く、スイミングプール自身を持つホテルは少ない。その状況下で開業100年を超える建物の屋上に何の違和感もなく新設できたのは驚くべきことである。ニューヨークのセレブリティの間では人気が高く、ペニンシュラスパの会員希望が多いと聞く。

ペニンシュラNYは23階建て、54室のスイートと185室のゲストルームを擁し、メインダイニング&バー「Fives」、ラウンジ&バー「The Gotham Lounge」、ルーフトップバー&ラウンジ「Salon de Ning」、スパ「The Peninsula Spa by ESPA」、プール・フィットネス、5thアベニューを見下ろす「Sun Terrace」など楽しく充実した施設を誇る。建物外観はボサール様式のクラシカルな印象だが、客室を含めて内部施設はプラザやセントレジスの古典的フレンチスタイルとは一線を画した、モダンなアーバンスタイルになっており自然な形で溶け込める。そこにはペニンシュラ流のホスピタリティと、目には見えないがアジアテイストの風を感じ、筆者には心地よく感じたのかもしれない。



2階にあるメインダイニング「ファイブス」[Fives]。大きな窓からは5thアベニュー中心地の華やかな雰囲気を感じる



ペニンシュラスパ屋外にある「Sun Terrace」。ちょうど5thアベニューのコーナーにある別天地だ



コンシェルジュ脇にある居心地の良いビジネスセンター。必要な機器はすべて装備している



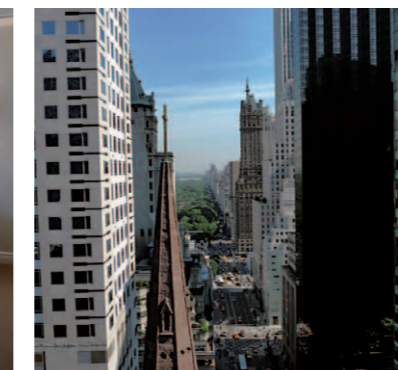
ペニンシュラスパ最上階にあるスイミングプール。左側は5thアベニューに面しており、東京で言えば銀座四丁目の服部時計店屋上といった感じだ



5thアベニューと55丁目の角に位置して最高の眺望を誇るリビングルーム。この部屋はデラックススイートで約100㎡の広さがある



リビングからドレッシングエリアに行く途中に独立したベッドルームがある。モダンなアーバンスタイルのデザインだ



サンテラスから5thアベニューの向こうにセントラルパークの森が望める。手前の教会は問題となった「5番街長老教会」だ

ザ・ペニンシュラ・ニューヨーク The Peninsula New York

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載



ザ・ペニンシュラ、ニューヨークの正面エントランス。開業は1988年で香港&上海ホテルズ社にとってアジア以外、西洋初進出の記念すべきホテルである



ペニンシュラおなじみの白帽・白制服のページボーイ。アジア色の強い制服だが、意外にニューヨークでも違和感がない



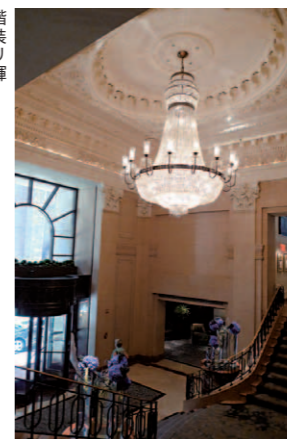
洗った木目の重厚感が漂うレセプションデスク。正面奥にコンシェルジュデスクも見える



豪華なエントランスホールの大階段。マキシム・ド・パリ時代のアール・ヌーボワの傑作で、ペニンシュラNYの最大の見所の一つである



エントランスホール大階段の天井には美しい装飾と、巨大なシャンデリアがまばゆいくらいに輝いている



夜間、ライトアップされたペニンシュラNYの優美な正面ファサード



メインダイニング「Fives」入り口近くにあるグランドピアノと美しいアーチの窓

筆者 小原康裕

ホテルジャーナリスト。慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年Munich Re入社。85年築地原健代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。
※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。ホテルだけでなく、オリエントエクスプレスなど鉄道関係の掲載、季節刊行で世界遺産の案内などさまざまな情報が得られる。
www.jhrca.com/worldhotel

